

茨城県国際理解教育推進協議会
会長 石川 哲夫 殿

ワールドキャラバン国際理解教育実施報告書

学校名 茨城県立霞ヶ浦聾学校

担当教諭名 関ますみ

「ワールドキャラバン」国際理解教育については、下記のとおり実施しましたので報告します。

記

実施日時	平成 21年11月24日(月) 10 : 00~ 14:00
対象学年と人数	小学部全員 16人
派遣講師名と出身国	キムソナさん(韓国) 西村ルミアナ(ブルガリア)
活動の内容	自己紹介(聾学校) 自国紹介(ブルガリア、韓国) ア)国の地理について イ)あいさつの言葉(おはよう、ありがとう、さようなら) ウ)生活習慣について(食べ物、通貨など) エ)ゲーム(フルーツバスケット) 給食体験及び昼やすみ ゲーム(体を動かす活動(ダンス、歌、ゲーム)など) 感想発表、写真撮影
コーディネーター	山形正子
生徒・保護者等参加者の感想	ブルガリアの学校の様子や食べ物、韓国のマンションやお金の話を聞いてびっくりしました。韓国ののりを食べたら韓国に行ってみたくて思いました。 韓国、ブルガリアの服は日本と違うなと思いました。韓国の服を今度着てみたいと思いました。一緒にフルーツバスケットのゲームをやりました。果物のブルガリア語と韓国語の表現を教えてくださいました。また、ボクの名前をブルガリアや韓国の文字で紙に書いて教えてもらいました。知識が増やせたと思います。 韓国の服を着せてもらいました。うれしかったです。いろいろな韓国語の話をしてくれました。私は韓国語が分かりませんでした。でも、大人になったらたくさんしゃべれるようになりたいです。
先生の感想	事前に国旗当てクイズをしたり、講師へのプレゼントづくりで折り紙を折ったりしながら、交流活動を楽しみにしていました。児童の多くは外国の方と直接接するのは初めてで興味津々でした。講師の方の母国語の発音を聴覚を研ぎ澄ませ、口形を良く見ながら、カタカナの発音を手がかりに一生懸命に外国語を覚えようとしている児童の真剣な表情を見て、コミュニケーション手段はいろいろですが、本活動が実現できてよかったと思いました。各国の紹介にも関心を持ち、どの児童も将来外国に行ってみたくて、もっと他の国についても知ってみたいという気持ちになったようです。活動している時の表情や感想発表、事後の作文にもよく現れていました。また、このような活動を企画していけたらうれしく思います。